

湘南慶育病院

症例概要 症例概要

患者： 70代女性

病名：左被殻出血

入院期間：2023年12月中旬～2024年3月下旬

【経過】

2023年12月上旬 駅の通路でふらつき、転倒しているところを発見され、急性期病院へ救急搬送

12月中旬 リハビリテーション目的にて当院へ転院

【生活歴】

夫と息子の3人暮らしで主婦としての役割を担っていた。夫との晩酌が日課であり、毎晩アルコール（缶チューハイ2・3本、ワイン1/2本）を摂取していた。また、食事は外食に行くことが多く、自宅での食事の味付けが濃いことも習慣となっていた。

内 容

【症例紹介】

入院時の状態として、右上下肢の重度の運動麻痺があり、基本動作や日常生活動作が重度介助の状態であった。さらに、注意障害や記憶障害などの高次脳機能障害があり、生活場面での安全管理や服薬管理が困難な状態であった。既往歴としては、高血圧症と糖尿病が指摘されていた。これまで、高血圧症や糖尿病のリスクについて認識しておらず、生活指導などを受けた経験は無かった。生活習慣としては、飲酒量や栄養管理が不十分であり、再発予防の観点からも同居している夫を含めた教育的な介入が必要な状態であった。

【チームアプローチ】

本症例は服薬の重要性の理解が不十分であったことに加えて、高次脳機能障害の影響からも自身の服薬管理は困難な状態であった。そのため、まず症例と夫に対して薬剤師より薬剤の説明および服薬の重要性について指導を実施した。また、服薬管理については看護師とリハビリスタッフで課題を共有し、薬剤を管理する入れ物を工夫することで薬の飲み忘れが無いように環境調整を行った。さらに、リハビリの介入では、服薬の習慣化を目的とした練習を繰り返し行った。

さらに、退院後の再発を予防することを目的に、栄養士による栄養指導と、リハビリによる運動習慣の確保に向けた指導を実施した。栄養指導では、栄養士がこれまでの食生活の聴取を行い、食生活における課題を整理し、味付けの方法や適切な飲酒量について情報提供を実施した。

運動習慣の獲得のためには、リハビリスタッフが自主トレ方法を指導することに加えて、退院後の自宅周辺の環境を加味した散歩経路の提案などを行った。さらに、血圧管理の習慣化のために、病棟生活のサイクルの中で定期的に血圧を測定することを指導した。

上記の栄養指導ならびに運動習慣の指導については、ご本人に加えて同居している夫に対しても指導を行うことで、退院後にも指導内容が定着することを目指した。

【結果】

服薬管理が自立したことに加えて、血圧測定 of 習慣化や、自身の栄養状態に留意する言動が増加した。日常生活は自立し、もともと自宅で担っていた主婦としての役割に復帰することができた。さらに、趣味として取り組んでいた園芸にも取り組むことができるようになり、自宅での余暇活動の復帰にもつなげることができた。

症例のもともとの生活習慣と、高次脳機能障害などを把握し、チームアプローチを通して包括的な支援を実施したことが、症例の生活の再建に功を奏したものと考えられた。